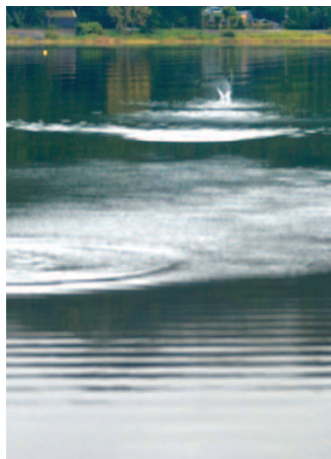


水にかかわる生活意識調査13年

水の文化 触発の 波及



- 諸富 徹 「危機感の値段」
- 池内 恵 「生活文化に根差した水意識」
- 川路直彦 「節水意識を実現した水研究」
- 泉 麻人 「みずみずしいと感じる有名人」
- 編集部 「なぜ名古屋の水はおいしいのか」
- 島谷幸宏 「変化する川、自由な川が美しい」
- 陣内秀信 「身近な都市の水辺に夕暮れ文化を」
- 水の文化楽習実践取材 「海からのラブライター」
- 鳥越皓之 「愛でる楽しむ華やぐ」
- 古賀邦雄 水の文化書誌 「水と暮らしの変遷」

水の文化 October 2007 No.

27

水の文化 2007 27



ミツカン水の文化センター

表紙：水切り。最後に石を投げたのはいつだっただろうか。秘訣は石の選択にある。平べったくて丸い石がよい。水面ぎりぎりのアンダースローは、最後にスナップを利かせてシュート回転をつけてやる。水辺に丸石があって、気兼ねなく「水切り」を楽しめるところが少なくなった。

裏表紙上：夕暮れのまち歩き、夜の11時を回ったところ。北欧の夏は、長い夕暮れを楽しむ人で華やぎを醸し出す。北のほうでは朝焼けとの境がない地方もある。

裏表紙下左：物事は、複雑な事柄のかかり合いの中に存在する。丁寧にほどいていかないと余計に絡んでしまうことは、よくあることだ。「筋（もやい）結び」という輪が縮まらない結び方でクリートに固定するのは、アンカーロープが絡まないで簡単に外せるようにする工夫。後から舳う船は、クリートの一番下に舳うのが「作法」である。

裏表紙下中：気仙沼湾に注ぎ込む大川の源流近く、ひこぼえの森の山麓に水神様が祀られていた。つい4年前にリニューアルされたという。海からのラブライターが、水を敬う心を触発したようだ。

裏表紙下右：流れゆく水の周辺では、さまざまな人間模様がくり広げられている。誰かがその流れにフォーカスを当てると、波紋が広がる。

